

執筆のしおり

(2015年12月 改訂)

1. 原稿用紙および原稿の長さ

原稿用紙の書式は学会の定めるテンプレートに準ずる。原稿の長さは刷り上りの状態で下記のページ数を基準とする。刷り上り1ページを文字で全部を埋めた場合、2,548字(1行あたり26字×49行×2段)に相当する。なお、下記の刷り上りページ数には表題、要旨、図表などの全てを含むので、これらのスペースも考慮し、原稿を執筆すること。

- | | |
|---------------|------|
| (1) 研究： | 6ページ |
| (2) ショートペーパー： | 2ページ |
| (3) 報告： | 2ページ |
| (4) 投稿解説： | 6ページ |

ただしショートペーパーはページ数の上限を4ページとする。

2. 原稿の構成

原稿は、要旨、本文、謝辞、参考文献、著者紹介、図表の電子ファイルから成り、誓約書も必要である。

2.1 要旨

「研究」および「投稿解説」には和文および英文の両方の要旨を付す。「ショートペーパー」および「報告」には英文の要旨のみを付す。和文要旨は300字程度、英文要旨は200語程度にまとめる。

2.2 本文

原稿は、十分推敲し、簡潔でわかりやすいように、重点を強調して記述する。

(1) 原稿の言語

日本語を用いることを原則とするが、英語を用いてもよい。以下は、日本語を用いる場合の規定である。英語を用いる場合もこれに準ずる。

(2) 用語・単位・記号

文章は、できる限り当用漢字・新かなづかいを用いる。学術用語は、文部科学省、JIS または関連学会で定めたものを用いる。それ以外のは、慣用の学術用語および技術用語を使用する。単位は、国際単位系(SI)による。量および単位を表す記号は、なるべくJISで制定されたものを用い、必要があれば記号一覧表をつける。単位の記号は、50 kg, 100 mm, 30 degのように数値と単位の間には半角スペースを入れる。ただし%と℃にはスペースを入れない。

(3) 見出し

本文は、節、小節、項に区切る。節の見出し番号は1., 2., …, 小節の見出し番号は1.1, 1.2, …, 項の見出し番号は(1), (2), …とし、行の左端から書き、本文はこれと行を変えて書く。

(4) こまどりと句読点

本文は、書きだしおよび改行後の書きだし部分を1こまあける。また見出し番号の次も1こまあける。句点は[.]、読点は[,]とし、1こまを占める。

(5) 脚注

本文中では、右側に*, †, ‡, §の順に記号をつける。

(6) 文字指定

物理量を表す英字はイタリック体とし、その他の英字(単位: kg など、関数(著者の定義でない)・演算子: sin, det など、一般用語、固有名詞)は立体とする。

(7) 数式

数式は改行して2行取りとする。式の右に(1)のように数字を括弧で囲んで式番号として付け、本文中では「式(1)」のように引用する。分数式を本文中に入れるときは、 $a/b, (a+b)/(c+d)$ のように1行に書く。

2.3 参考文献

本文中での参考文献は、引用箇所の右肩に番号を¹⁾もしくは^{1,2) 3-7)}のように記入する。文献の一覧は、下記の形式で本文の末尾にまとめて記載する。著者は全員を記載する。雑誌名は省略しない名称を記載する。また、文献の一覧のカンマ、ピリオド、コロンは、和文の場合には全角とする。英文の場合には半角とし、後ろに半角スペースを入れる。

DOI (Digital Object Identifier) が付与された文献をリストする場合には、DOI を付与することが望ましい。

(1) 雑誌の場合

番号) 著者名: 表題, 雑誌名, 巻(号), 頁-頁, (年).

一例-

1) 日本太郎, 石英硝子: 人工の手の機構と運動, バイオメカニズム学会誌, 2(1), 10-15, (1993).

2) Nihon, T. and Tokyo, J.: Biomechanics of joints, Journal of Biomechanics, 3(1), 20-25, (1994).

(表題は最初の文字だけ大文字にする.)

(2) 書籍の場合

番号) 著者名: 書名, 頁-頁, 出版社, (発行年).

一例-

3) 東京太郎: バイオメカニズム入門, 50-70, 日本出版, (1985).

4) Yamaguchi, G. T.: Dynamic modeling of musculo-skeletal motion, 158-159, Kluwer Academic Publisher, (2001).

(3) 編著書籍の場合

番号) 著者名: 表題, 編集者名(編): 書名, 頁-頁, 出版社, (発行年).

一例-

5) 鳥居鎮夫: 衝動行動, 中村嘉太郎, 坂田英夫(編): 脳の科学 II, 123-145, 朝倉書店, (2000).

6) Camuri, A., Morasso, P. and Zacca, R.: Dance and movement, In: Morasso, P., Garozzo, N. and Tagliasco, V. (Eds): Human Movement Understanding, 85-124, North-Holland, (2002).

- (4) DOI が付与された文献の場合
番号) 著者名: 表題, 雑誌名, 巻(号), 頁-頁, (年).
一例-
- 7) 日本太郎, 石英硝子: 人工の手の機構と運動, ○○○○
○ 学会誌, 2(1), 10-15, (2014). DOI:
10.14923/transinfj.2014JDP0001
- 8) Nihon, T. and Tokyo, J.: Biomechanics of joints,
Journal of Biomechanics, 3(1), 20-25, (1994). DOI:
10.1016/j.jbiomech.1994.11.002
- (5) Web ページの参照
Web ページは改版や消滅の可能性があるため、参考文献
とはせず、脚注に記述する。
サイト管理者, URL (年/月/日確認)
* バイオメカニクス学会, <http://sobim.jp/> (2013/3/1 確認)

2.4 図表説明一覧

図表の説明は、ページを改めてまとめて一覧できる形に記載し、原稿に添付する。図表説明は和文のみとする。図表番号は図1, 表1 などとする。

2.5 図表

採録決定後に、テンプレート原稿に貼り付ける図表とは別に、原図を個々のファイルとして保存して提出する。図表は一つずつ、線画（ベクトルデータ）の場合には PDF, EPS あるいは PowerPoint 形式で、画像（ビットイメージ）の場合には JPEG あるいは TIFF 形式で、ファイル名を図1, 表2 などの通し番号にして保存する。

図表は、原図を組版ソフトウェアで配置してオフセット印刷する。原図がカラーでも白黒印刷になる。写真は図に含める。写真は濃淡のはっきりしたものとし、画素数は刷り上り寸法 1 インチあたり 350 画素 (350 画素で刷り上がり 2.54 cm になる) 以上が望ましい。

他者に著作権が帰属する資料を引用の範囲を越えて¹使用する際には、著者がその許可申請手続きを行うこととする。図表を引用・転載する場合には、引用・転載元の情報を図表の説明に記載する。

2.6 謝辞

謝辞がある場合には、本文の最後、参考文献の前に書く。

2.7 著者紹介

「研究」「投稿解説」の場合は、氏名、学歴、職歴、研究テーマ、所属学会などを記載した著者紹介を作成する。第1著者は、200字以内で、顔写真のファイルを添付する。第2著者以降は、100字以内で写真なしとし、希望者のみ掲載する。

一例- (200字)

筑羽太郎 (つくばたろう) 1984年筑羽大学大学院工学系研究科博士課程満期退学。1990年工学博士。1985年筑羽大学工学部精密機械工学科助手。現在、製品科学大学理工学部産業機械工学

科教授。主として電動義手の開発、多関節型ロボットの研究に従事。精密工学会、計測自動制御学会、日本ME学会、日本ロボット学会の会員。(バイオメカニクス学会正会員)

2.8 誓約書

以下の項目についての誓約書を添付する: 投稿内容が倫理規定に従っていること、論文不正・捏造がないこと、著作権が適正に処理されていること、出版物の著作権の帰属がバイオメカニクス学会にあること、著者全員が原稿の内容に責任をもっていること。誓約書の様式は、本学会のホームページからダウンロードできる。

2.9 原稿のPDF化

寄稿希望者は学会ホームページからテンプレートをダウンロードし、所定の形式で原稿を作成してPDF化したものを電子投稿システムを利用して提出する。PDF化する原稿は、1. 原稿、2. 誓約書とし、これらを別々に作成する。PDFファイルに変換できない場合には、学会事務局に問い合わせること。

2.10 電子ファイルの提出

採録決定後にPDF化しない状態の原稿の電子ファイルを電子メールに添付して提出する。電子メールを利用できない場合は、学会事務局と連絡をとり、CD-ROMによる送付など可能な方法を用いる。図を除いた全ての原稿を、MS-Word あるいはテキストファイル形式で保存する。図の電子ファイルは、JPEG, TIFF, EPS, PDF, PowerPoint などの形式が分かるようにする。図表を配置したテンプレート原稿をレイアウトの参考とするが、必ずしもテンプレート原稿の通りに印刷されるとは限らない。

3. 掲載料

寄稿が採用された場合、下記の論文掲載料を申し受ける。

| | 研究 投稿解説 | ショートペーパー 報告 |
|------------------|------------|------------------------|
| 基本ページ数 | 6 | 2 |
| 上限ページ数 | 規定なし | ショートペーパー:4 報告: 規程なし |
| 掲載料 | ¥50,000 | ¥20,000 |
| 超過料金 | ¥10,000/頁 | ¥10,000/頁 |
| 別刷り料金 (20部単位) | ¥50/頁/部 | ¥50/頁/部 |

4. 執筆の要点一覧

| | 研究 投稿解説 | ショートペーパー 報告 |
|--------|------------|----------------|
| 和文要旨 | ○ | |
| 英文要旨 | ○ | ○ |
| 本文 | ○ | ○ |
| 図表説明 | ○和文 | ○和文 |
| 図表 | ○和文 | ○和文 |
| 著者紹介 | ○ | |
| 電子ファイル | ○ | ○ |

注) 上記要点一覧は本文を日本語で執筆することを前提としたもの。本文を英語で執筆する場合もこれに準ずるが、和文表題などは不要。

¹日本医書出版協会

<http://www.medbooks.or.jp/copyright/forauthor/quot.php>
(2015/12/31 確認)